

幸樹

こう じゆ

第33号

2017年12月1日

発行・一般社団法人幸樹会「幸樹」編集委員会

……………幸樹会事業所……………

からたち薬局・介護ショップからたち ☎047-710-2785

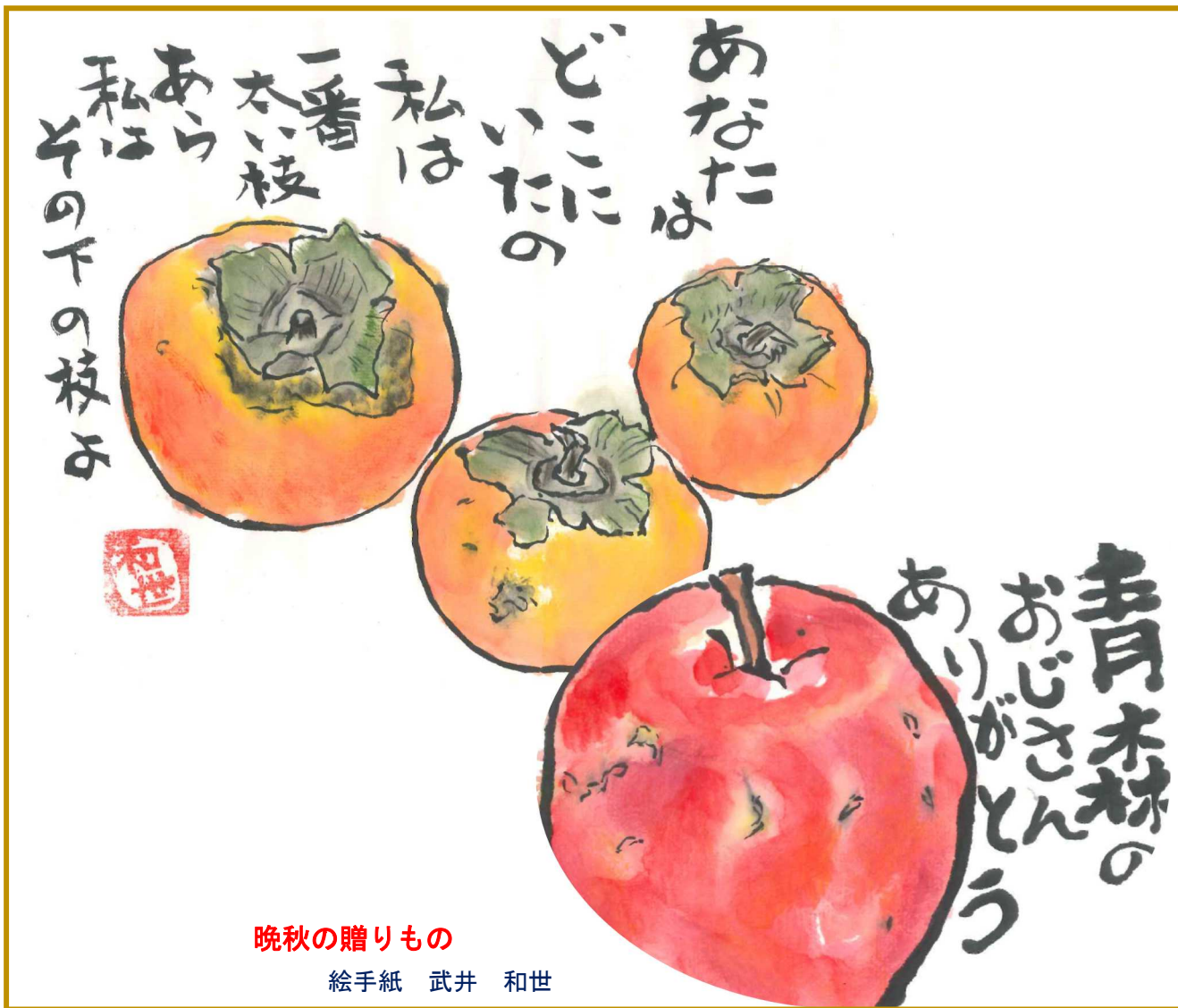
あんず訪問看護ステーション ☎047-701-5559

あんず居宅介護事業所 ☎047-701-5558

ケアステーションゆず ☎047-701-5506

看護小規模多機能型居宅介護さんしょう ☎047-710-0331

〒270-2254 千葉県松戸市河原塚 411-1 幸樹会館



晩秋の贈りもの

絵手紙 武井 和世

第12回地域交流カフェ

クリスマスを楽しみましょう

●12月19日(火)、12:00~15:00

●さんしょうリビング

みんなで一緒に、スノードーム、タオルケーキをつくろう

岡野俊之牧師のお話と聖歌隊合唱

職員ハンドベル部演奏、楽しい出し物も

<事前申し込みは不要です。ぜひご参加ください>



利用者・介護職員の 介護の未来が 不幸にならないよう

「特養あずみの里刑事事件」講演を聞いて

11月26日(日)、千住介護福祉専門学校で行われた
東都保健医療福祉協議会第14回介護活動交流集会で
の特別講演「特養あずみの里の刑事事件」(講師:藤井
篤弁護士)を聞かせていただきました。

この事件の概要は、長野県安曇野市の特別養護老人
ホーム「あずみの里」で、2013年12月12日に、お
やつのドーナツを食べていた85歳の女性入所者が、
ぐったりとしているところを発見され、施設職員が
ドーナツを指で搔き出し、心臓マッサージ・酸素マス
クなど全力で救命に努め、その後救急車内での救命措
置により一旦は心拍が再開しましたが、2014年1月
16日、入院先の病院で亡くなったというものです。

「誤飲事故」で前例のない刑事起訴

この出来事をとらえて検察は2014年12月26日、
女性の隣で食事全介助の男性入所者にゼリーを食べ
させていた准看護師を、女性に対する注視を怠りドーナツを誤嚥・窒息させ、心肺停止状態におちいらせ、低酸素脳症により死亡させたとして「業務上過失致死」で長野地裁松本支部に在宅起訴しました。

これは、過去に前例のない起訴で、老人介護施設に
おける「誤嚥事故」において介護従事者が「業務上過
失致死」で刑事追及されることは、これまで全国でも
例がありません。

このような不幸な事故で介護現場の職員が犯罪者
にされたら、施設は利用者を選択し、介護が必要な方
が行き場を失います。老人の「漂流」が始まるとさ
えいわれています。事故防止と称して誤嚥や窒息の危
険があると胃ろうにし、ベッドからの転落や転倒によ
る骨折を恐れ、拘束し寝たきりにするなど、人間の尊
厳を無視した介護がまかり通ってしまうことになりか
ねません。利用者には、たいへん不幸な事態です。

一個人を犯罪者に仕立て上げても、わが国の介護現
場が抱える諸問題の解決には決してならないと「この
裁判には介護の未来がかかっている」と藤井弁護士は
呼びかけています。

私たちも、この裁判についての真実をよく知り、
介護現場で懸命に働く職員や、「人間の尊厳を守る介
護」を求める方々への人間らしい介護が守られるよ
う考えていきたいと思えます。この裁判は現在、重
大な局面を迎えています。「無罪を求める要請書」へ
の署名活動も行われています。私もできることから



▲一足早めのカルタとり

と、署名にとりくむことにしました。

介護現場の“事故”を個人の責任にしない

講演に先立って、「アクシデント事例から学ぶ～ア
クシデントから学ぶ気付きの目、利用者とともに作る
安心安全な生活～」というテーマで、協議会の9つの
事業所が演題発表をしました。①転倒防止策を考
えなかで人権の尊重、②限られた環境設備の中で多
角的に安全対策、③ご本人の自立した生活を送
りたいという気持ちを尊重しつつ、体調不良時の
医療(受診)につなげる取り組み、④内服の重
複を防ぐための訪問介護、⑤事業所内の誰が
訪問しても同一内容でケアが行えるよう情報共
有、⑥買い物ケア時、自分で買い物に出られ
ない利用者の希望を叶える、⑦利用者の家族
の異変に気付いて相談員と連携して利用者
と家族の生活を改善、⑧転倒を防ぎたい
利用者に対して、職員全員で観察と記録による
情報共有をし、その疾患や状態を学習会で学
び、医療職、家族を含めたチームで連携し支
援計画を立てた取り組み、⑨食事時の見守
りについて考え、利用者ADL(日常生活動作)
を再アセスメントしたり…、という事例検討
報告でした。

日常的に行っている「情報共有」や「その人
を中心にしたケアを考える」ということを、事
例発表をすることにより、目的や方法、結果
についての考察が行われ、今後の課題が明
確にされていました。

事例検討から学ぶことが大切ですので、幸
樹会でも事例検討や発表の場を設けていき
たいと思いました。

最後にリスクマネージャーが、「私たちは、皆
さんが働く現場で起きた事故を決して個人
のせいにはしたくないので安心してくだ
さい」と、力強く話していたのが印象的
でした。

(中野三代子)

**特養あずみの里裁判で「無罪を求める要請書」署名が
取り組まれています。幸樹会にも署名用紙があります
ので、ぜひご協力ください。**

晩秋の贈りもの！



『幸樹』第25号で紹介した焼き芋屋の成田富作さんが、つやつやで真っ赤なりんごを青森から送っていただきました。中は蜜がたっぷりで甘くて瑞々しく、とっても美味しく、看多機さんしょうの利用者の皆さんと一緒に、たくさんいただきました。



▲成田さんと
だいすけ君

利用者の皆さんは、りんごを手にとり、「りんごと美女、絵になるね」と言うと、「あら、三人も美女がいたらビジョビジョビジョで大変！」なんて、玲子さんが冗談を飛ばしました。そして、「りんごの皮を捨てたらもったいないわ。お皿に広げて乾かしたら美味しいおやつになるわよ。子供のころ兵隊さんの慰問袋に入れるための“りんごの皮を干したの”を作ったことを思い出すわ」と。そこで、島田さんが「子供たち



▲裕子さん（右）、島田さん（中）、玲子さん（左）

が作った生まれ故郷のものを食べたら、兵隊さん、さぞ懐かしかったでしょうね」…。

そんな話を聞いて、戦後世代の職員たちもしんみり。「よし！りんごの皮を干して、食べよう！」とバットに広げて乾かして、後日食べてみました。りんごの味が濃厚になって美味しい。干りんごの皮を噛みしめながら、裕子さんと、「これからはりんごの皮は捨てずに

干して食べよう」という話になりました。

青森の成田さんにお礼の電話をすると、元気でおでん屋さんをしていて、今青森はとっても寒いそうです。「美味しい焼き芋が食べられなくて寂しいです」と言うと、「桜のころに遊びにおいで、弘前の桜はとってもきれいだよ！」と言ってくださいました。

この秋、山梨北杜市のだんだん会・宮崎和加子さんからジャガイモがたくさん。利用者さんの自宅の庭の柿もたくさん。休職中の看護師・奥村万里子さんからも、ご実家のある福島から大きなりんごが届きました。2月には赤ちゃんが生まれるそうです。



▲宮崎さんからじゃがいも

皆さんから美味しいものをたくさんいただき、実りの秋を楽しみました。ありがとうございました。

シリーズ・『いまと昔の物語』から見た 河原塚の風景いろいろ…④

平安時代ごろからか

河原塚の旧家のなかで、もっとも古くから住んでいるのは矢野本家です。古すぎて、いつから住んでいるのが正確に分かりません。いくつかある手がかりをみてみましょう。

まず、本勝寺の山号「高野山一こうのさん」です。住職の川村貫朗上人は「高野山の高は日高上人の高をとり、野は矢野家の野をとってつけた」とみています。日高上人は日蓮上人の弟子で、中山法華経寺の二代目貫首。本勝寺開山と伝わる正和元年（1312）は、57歳で亡くなる2年前にあたります。

つぎは熊野神社。昭和8年に八柱村助役がまとめた『八柱詩』では、熊野神社は「矢野甚兵衛ノ氏神ナリキトイウ」と紹介しています。では、熊野神社はいつごろからあったのでしょうか。平凡社発行の『日本歴史地名大系』によると、「延喜年間（901～923年）すでに社があったと伝え」られています。

平安時代の初期、河原塚には熊野神社があったということです。神社があるということは、この地域に人が住んでいたことをうかがわせます。矢野家と熊野神社の関係がそのころからとなると、平安時代にはすでに河原塚に住んでいたことになります。

河原塚には縄文時代の遺跡はたくさんありますが、弥生時代の遺跡は見つかっていません。その後古墳時代からは、途切れることなく住んでいたようです。

（河原塚史編纂委員会幹事・内中偉雄）



デンマーク便り

ラスムッセン 京子

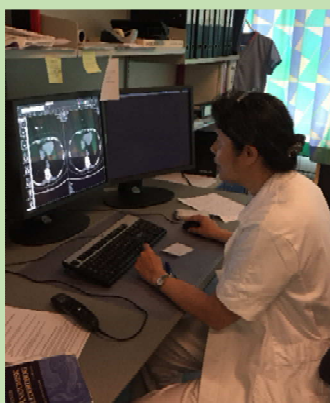
私は、現在コペンハーゲン大学病院の一つである Hvidovre Hospital で、放射線科医として働いています。

26 歳でデンマーク人の夫と結婚し、3 児を出産後、一般教養が付くようにと高校に入学。全国統一卒業試験を好成績で卒業出来たお蔭で、コペンハーゲン大学の医学部に入学。6 年半の過程を 6 年半で卒業、平均では 8 年半卒業に掛かります。医師免許の国家試験はありません、毎回の試験がつまり国家試験なのです。デンマークには 3 つの国立大学に医学部があり全国統一試験で単位を取っていきます。入学者の約半分が卒業します。研修医、専門医過程を終了し、厚生省から放射線科専門医の認定を受ました。現在は 38 人の放射線科医を抱えるこちらの病院で胸部診断のチーム（専門医が 2 人と専門医課程の医師が 1 人で構成）で診断しています。

ボランティアでは、Japan Scandinavia Radiologic Society（日本・スカンジナビア放射線医学協会）で役員をしています。デンマークの医師、又は日本の医師がお互いの国に留学を希望している場合、そのアレンジをするという役目です。

今年 61 歳になりました。67 歳の定年までしっかり働いて、出来れば診断のアルバイトをしながら、医師免許の消滅する 75 歳まで遠隔診断のアルバイトをしたいと思っています。

今月から短いエッセイを連載させて頂くことになりました。宜しくお願いします。



▲真ん中が京子さん、右が夫のラスムッセンさん

八柱学習会（定期勉強会）

●前回報告 11 月 17 日（金）。助言者 武井幸穂氏

テーマ：社会保障と財政・経済

二木立『地域包括ケアと福祉改革』から

さまざまところで、特に財政問題を焦点にして「高齢社会危機論」が喧伝されています。そうした議論に対して、二木さんは、「①今後人口高齢化が進んでも、社会の扶養負担は増加しない。②日本の労働生産性伸び率は低くないし、今後も、1 人当たり GDP が毎年 1% 成長すれば超高齢・少子社会は維持できる。③日本の医療費（対 GDP 比）は最近 OECD 加盟国中第 3 位になったが、加盟国の高齢化率の違いを補正すると、日本は『高医療費国』とは言えない」とし、医療・福祉関係者を含めて広く国民に蔓延している将来に対する悲観論が一面的であることを、実証的に明らかにしています。

そして、現在のような医療・介護など社会保障の厳しい抑制が続けられた場合には、社会的格差がさらに拡大し、国民的統合が弱まる危険があると危惧し、それを予防するにも「社会保障の機能強化が必要だ」と指摘しています。

参加者は 15 名。「制度や財政、経済の話はどれも難しい」という声は多かったのですが、一人ひとりの生活や未来に関わることなので、しばらく、我慢して社会保障と財政・経済などをテーマにして勉強していきましょう。

●次回学習会予定（定例日：毎月第 3 金曜日）

日時：12 月 15 日（金）18：30～19：30

テーマ：社会保障と財政・経済

京極高直『社会保障は日本経済の足を引っ張っているか』

* 場所：幸樹会館 2 階 * 参加自由

八柱学習会・特別講座

「上手に老いる」

—自己点検ノートを使って—

講師：石黒 秀喜氏

（元厚生労働省老健局介護保険指導室長）

● 1 月 19 日（金）、18：30～

● 3 月 16 日（金）、18：30～

場所：幸樹会館 2 階会議室

今月の屋上太陽光発電量は、

814KW



幸樹会館電力使用量 4744KW 自給率 17.2%